

## 猿かに合戦

動画リンク: <https://youtu.be/3VfWVidx2ts>

日本昔ばなし  
猿かに合戦

今回は日本の昔ばなし「猿かに合戦」を学びながら日本語を勉強しましょう。

この動画は、1部・2部・3部に分かれ、3段階のスピードで聴くことができます。  
1部→2部→3部の順にスピードは速くなり、ふりがながあるのは1部のみです。  
学習にお役立てください。

はじめに。  
お話を始める前に、昔ばなし・童話・おとぎ話の違いについて少し説明します。

■昔ばなし  
「昔ばなし」には、昔から語り継がれてきた話という意味があります。  
語り継がれてきた話なので、作者が誰かはわかりません。

■童話  
子供が読むことを前提に作られた物語です。  
作られた物語なので、当然作者は存在します。

■おとぎ話  
子供に語って聞かせるための昔ばなしや童話のことです。  
おとぎ話の中には語り継がれてきた昔ばなしも、そして創作である童話も含まれます。

「猿かに合戦」は日本五大昔ばなしのひとつとして、とても有名な日本の昔ばなしです。

それでは「猿かに合戦」のお話を始めます。

むかし、むかし、あるところに、猿とかにがいました。

ある日、猿とかにはお天気がいいので、連れだって遊びに出ました。  
その途中、山道で猿は柿の種を拾いました。

またしばらく行くと、川のそばでかにはおむすびを拾いました。

かには、  
“こんないいものを拾った。”  
と言って猿に見せると、猿も、  
“わたしだってこんないいものを拾った。”  
と言って、柿の種を見せました。

けれど猿はほんとうはおむすびがほしくてならないものですから、かに向かって、

“どうだ、この柿の種と取りかえっこをしないか。”  
と言いました。

“でもおむすびの方が大きいじゃないか。”

と、かには言いました。  
“でも柿の種は、まけば芽が出て木になって、おいしい実がなるよ。”  
と猿は言いました。

そう言われると、かにも種がほしくなって、  
“それもそうだなあ。”  
と言いながら、とうとう大きなおむすびと、小さな柿の種を取りかえてしまいました。

猿はうまくかきをだましておむすびをもらおうと、見せびらかしながらうまそうにむしゃむしゃ食べて、  
“さようなら、かにさん、ごちそうさま。”  
と言って、のそのそ自分のうちへ帰っていきました。

かには柿の種をさっそくお庭にまきました。  
そして、  
“早く芽を出せ柿の種。出さぬとはさみでちよん切るぞ。”  
と言いました。

すると間もなく、かわいらしい芽がによきんと出ました。

かにはその芽に向かって毎日、  
“早く木になれ柿の芽よ。ならぬとはさみでちよん切るぞ。”  
と言いました。

すると柿の芽はずんずんのびて、大きな木になって、枝が出て、葉が茂って、やがて花が咲きました。

かにはこんどはその木に向かって毎日、  
“早く実がなれ柿の木よ。ならぬとはさみでちよん切るぞ。”  
と言いました。

すると間もなく柿の木にはたくさん実がなって、ずんずん赤くなりました。

それを下からかには見上げて、  
“うまそうだなあ。早く一つ食べてみたい。”  
といって、手をのばしましたが、背がひくくってとどきません。

こんどは木の上に登ろうとしましたが、横ばいですからいくら登っても登っても落ちてしまいます。

とうとうかにもあきらめて、それでも毎日、くやしそうに下からながめていました。

するとある日、猿が来て、鈴なりになっている柿を見上げてよだれをたらしました。

そしてこんなにりっぱな実がなるなら、おむすびと取りかえっこをするのではなかったと思いました。

それを見てかには、  
“猿さん、ながめていないで、登って取ってくれないか。お礼には柿を少しあげるよ。”  
と言いました。

猿は、  
“しめた。”  
と言わないばかりの顔をして、  
“よしよし、取って上げるから待っておいで。”  
と言いながら、するする木の上に登っていきました。

そして枝と枝との間にゆっくり腰をかけて、まず一つ、うまそうな赤い柿をもち、わざと、  
“どうもおいしい柿だ。”  
と言い、むしゃむしゃ食べはじめました。

かにはうらやましそうに下でながめていましたが、  
“おいおい、自分ばかり食べないで、早くここへもほうっておくれよ。”  
と言いますと、

猿は、  
“よしよし。”  
と言いながら、わざと青い柿をもちでほうり出しました。

かにはあわてて拾って食べてみますと、それはしぶくって口がまがりそうでした。

かにかが、  
“これこれ、こんなしぶいのはだめだよ。もっとあまいのをおくれよ。”  
と言いますと、

猿は  
“よしよし。”  
と言いながら、もっと青いのをもちで、ほうりました。

かにかが、  
“こんどもやっぱしぶくってだめだ。ほんとうにあまいのをおくれよ。”  
と言いますと、

猿はうさそうに、  
“よし、そんならこれをやる。”  
と言いながら、

いちばん青い硬いのをもちで、上をむいて待っているかにかの頭をめがけて力いっぱい投げつけますと、

かには、  
“あつ。”  
と言うと、ひどく甲羅をうたれて、目をまわして、死んでしまいました。

猿は、  
“ざまをみろ。”  
と言いながら、こんどこそあまい柿を一人じめにして、おなかのやぶれるほどたくさん食べて、

その上、両手にかかえきれないほど持って、あとをも見ずにどんどん逃げて行ってしまいました。

猿が行ってしまったあと、そのときちょうど裏の小川へ友だちと遊びに行っていた子がにかが帰って来ました。

見ると柿の木の下に親がかにか甲羅をくだかれて死んでいます。  
かにかにはびっくりしておいおい泣き出しました。

泣きながら、  
“いったいだれがこんなひどいことをしたのだろう。”  
と思っよく見ますと、

さっきまであれほどみごとになっていた柿がきれいになくなって、青い 青い、しぶ柿ばかりが残っていました。

“じゃあ、猿のやつが柿を取っていったのだな。”  
と、かにはくやしがつて、またおいおい泣き出しました。

するとそこへ栗がぼんとはねて来て、  
“かにさん、かにさん、なぜ泣くの。”  
と聞きました。

子がには、親がにのかたきを討ちたいと言いますと、

栗は、  
“にくい猿だ。よしよし、おじさんがかたきをとってやるから、泣かないで。”  
と言いました。

それでも子がには泣いていますと、こんどは蜂がぶんとうなって来て、  
“かにさん、かにさん、なぜ泣くの。”  
と聞きました。

子がには、親がにのかたきを討ちたいと言いました。

すると蜂も、  
“にくい猿だ。よしよし、おじさんがかたきをとってやるから、泣くんじゃない。”  
と言いました。

それでも子がにがまだ泣いていますと、こんどは昆布がのろのろすべって来て、  
“かにさん、かにさん、なぜ泣くの。”  
と聞きました。

子がには、親がにのかたきを討ちたいと言いました。すると昆布も、  
“にくい猿だ。よしよし、おじさんがかたきをとってやるから、泣かないで。”  
と言いました。

それでも子がにがまだ泣いていますと、こんどは臼がころころころがつて来て、  
“かにさん、かにさん、なぜ泣くの。”  
と聞きました。

子がには親がにのかたきを討ちたいと言いました。すると臼も、  
“にくい猿だ。よしよし、おじさんがかたきをとってやるから、泣くんじゃない。”  
と言いました。

子がにはこれですっかり泣きやみました。  
栗と蜂と昆布と臼は、集まって、かたき討ちの相談をはじめました。

相談がやっとまとまると、臼と昆布と蜂と栗は、子がにを連れて猿のうちへ出かけて行きました。

猿はたんと柿を食べて、おなかがいっぱいになって、腹ごなしに山へでも遊びに行ったとみえて、うちにはいませんでした。

“ちょうどいい。この間にみんなでうちの中にかくれて待っていよう。”  
と臼が言いますと、みんなはさんせいして、

いちばんに栗が、  
“わたしはここにかくれよう。”

と言って、炉の灰の中にもぐり込みました。

“わたしはここだよ。”  
と言いながら、蜂は水がめの陰にかくれました。

“わたしはここさ。”  
と、昆布は敷居の上に長々と寝そべりました。

“じゃあ、わたしはここに乘っていよう。”  
と曰は言って、かもいの上にはい上がりました。

夕方になって、猿はくたびれて、外から帰って来ました。そして炉ばたにどっかり座り込んで、  
“ああ、のどが渴いた。”  
と言いながら、

いきなりやかに手をかけますと、灰の中にかくれていた栗がぽんとはね出して、とび上がって、猿の鼻面を力まかせにけりつけました。

“あつい。”  
と猿はさけんであわてて鼻面をおさえて、台所へかけ出しました。

そしてやけどをひやそうと思って、水がめの上に顔を出しますと、陰から蜂がぶんととび出して、猿の目の上をいやというほど刺しました。

“いたい。”  
と猿はさけんで、またあわてておもてへ逃げ出しました。

逃げ出すひょうしに、敷居の上に寝ていた昆布でつるりとすべって、腹ばいに倒れました。

その上に曰が、どさりところげ落ちて、うんとこしょと重しになってしまいました。

猿は赤い顔をありったけ赤くして苦しがつて、うんうんうなりながら、手足をばたばたやっていました。

そのとき、お庭の隅から子がにがちよろちよろはい出してきて、  
“親のかたきだ。”  
と言いながら、

はさみをふり上げて、猿の首をちょきんとはさみではさんでしまいました。

日本昔ばなし「猿かに合戦」は、いかがでしたか？

あなたの国の童話や昔ばなしをコメント欄から是非みんなに教えてください。

今後の動画制作に活かしますので、コメント欄から感想いただくと大変嬉しいです。

それでは、また別の動画でお会いしましょう。



**Japanese-listening-SUSHI**

